

[条例施行規則64条関係 (500t以上1000t未満排出事業者用)]

(様式第33号) (第64条関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月4日

(宛先) 長野市長 萩原 健司 様

提出者

住 所 長野市真島町真島2300-1

氏 名 長野機材株式会社

代表取締役 相澤 豪

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-285-1818

産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画について、長野市廃棄物の適正な処理の確保に関する
条例第79条第1項の規定により提出します。

事業場の名称	長野機材株式会社
事業場の所在地	長野市真島町真島2300-1
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	6 総合工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 51,100万円
③ 従業員数	32名
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	<p>発生 → 収集運搬（自社または委託） → 中間処理施設（委託） → 再生利用業者・最終処分業者へ処理委託</p> <p>がれき類（再生碎石として再資源化） 廢プラ（焼却→埋立） 木くず（焼却または燃料チップとして再資源化） 建設汚泥（焼却→埋立）</p>

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

代表取締役 → 工営部 → 工事部 → 廃棄物担当（マニフェスト・分別・運搬 管理）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	排 出 量	560.01t	0.09t	7.60t	8.83t	0.01t
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理			
	排 出 量	3.31t	3.97t			
	(これまでに実施した取組)					
<ul style="list-style-type: none"> ・余剰材の削減 ・適正な分別作業の実施 ・上記を踏まえた削減目標の設定（昨年実績の90%）と削減努力 						
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリがら、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	排 出 量	504.00t	0.08t	6.80t	7.90t	0.01t
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理			
	排 出 量	2.90t	3.50t			
(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・余剰材の削減 ・適正な分別作業の実施 ・上記を踏まえた削減目標の設定（昨年実績の90%）と削減努力の継続 						

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・適正な分別作業の実施 ・混合廃棄物の発生抑制
	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・適正な分別作業の実施 ・混合廃棄物の発生抑制
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・適正な分別作業の実施 ・混合廃棄物の発生抑制

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート・アスベスト)	ガラス・コンクリート・陶磁器類	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量					
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量					
	(これまでに実施した取組)					
	実施なし					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート・アスベスト)	ガラス・コンクリート・陶磁器類	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量					
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量					
	(今後実施する予定の取組)					
	実施予定なし					

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】 実績なし						
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート・アスベスト)	ガラス・コンクリート・陶磁器類	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量					
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量					
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量					
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量					
②計画	(これまでに実施した取組)					
	実施なし					
	【目標】					
	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート・アスベスト)	ガラス・コンクリート・陶磁器類	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量					
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量					
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理)			
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量					
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量					
	(今後実施する予定の取組)					
	実施予定なし					

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)	紙くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)	実施なし					
【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート、廃アス	ガラス・コンクリート・陶磁器く	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)	紙くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管				
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)	実施予定なし					

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【目標】					
②計画	産業廃棄物の種類	がれき類(コンクリート、廃アスファルト、ハンガ)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード)	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール、金)	金属くず	汚泥(上・下水、建設、その他)	紙くず
	全処理委託量	504.00t	0.08t	6.80t	7.90t	0.01t	0.05t
	優良認定処理業者への処理委託量	13.10t	0.08t	5.20t	7.70t	0.01t	0.05t
	再生利用業者への処理委託量	490.90t		1.60t	0.20t		
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
	産業廃棄物の種類	木くず	建設混合廃棄物(安定型、管理型)				
	全処理委託量	2.90t	3.50t				
	優良認定処理業者への処理委託量	2.20t	3.50t				
	再生利用業者への処理委託量	0.70t					
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量						
(今後実施する予定の取組)							
<ul style="list-style-type: none"> ・処分業者と処理内容を確認し、適正な委託契約を締結 ・マニフェスト管理の徹底 ・混合廃棄物の発生抑制 の継続							
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が500トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処理事項		産業廃棄物の種類												合計	
		がれき類 (コンクリート や、廃アス ファルト)	ガラス・コ ンクリート・ 陶磁器くず (石膏ボーラー ル)	廃プラス チック(廃タ イヤ、発泡 スチロール)	金属くず	汚泥(上・ 下水、建 設、その 他)	紙くず	木くず	建設混合 廃棄物(安 定型、管理 形)						
排出抑制に関する事項		前年度排出量(実績)	560.01t	0.09t	7.60t	8.83t	0.01t	0.05t	3.31t	3.97t				583.86t	
		本年度排出量(計画)	504.00t	0.08t	6.80t	7.90t	0.01t	0.05t	2.90t	3.50t				525.23t	
自ら行う(行った) 再生利用に関する事項		前年度実績													
		本年度計画(目標)													
自ら行う (行った) 中間処理 に関する 事項	自ら行う (行った) 熱回収の量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	自ら中間処理 により減量 する(した)量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
自ら行う(行った)埋立処 分又は海洋投 入処分に関する事項		前年度実績													
		本年度計画(目標)													
処理の委託に する事項	全処理委託量	前年度実績	560.01t	0.09t	7.60t	8.83t	0.01t	0.05t	3.31t	3.97t				583.86t	
		本年度計画(目標)	504.00t	0.08t	6.80t	7.90t	0.01t	0.05t	2.90t	3.50t				525.23t	
	優良認定処理業者 への処理委託量	前年度実績	14.56t	0.09t	5.85t	8.60t	0.01t	0.05t	2.48t	3.97t				35.60t	
		本年度計画(目標)	13.10t	0.08t	5.20t	7.70t	0.01t	0.05t	2.20t	3.50t				31.84t	
	再生利用業者への 処理委託量	前年度実績	545.45t		1.75t	0.23t			0.83t					548.26t	
		本年度計画(目標)	490.90t		1.60t	0.20t			0.70t					493.40t	
	認定熱回収業者へ の処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	認定熱回収業者以 外の熱回収を行 う業者への処理委 託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													

記載方法

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれとの内訳を記載してください。